

第2節 気象概要

(1) 台風19号の概況

(ア) 台風概況

10月9日9時、フィリピンの東海上に発生した1,008ミリバールの弱い熱帯低気圧は、ゆっくり北に進みながら次第に発達し、11日3時にはフィリピンの東、北緯14度20分、東経138度00分の海上で、中心気圧996ミリバールの台風19号となった。

台風はその後、発達しながらゆっくり北西～北北西に進み、15日3時には最も発達して中心気圧955ミリバールとなった。15日の日中は毎時20キロメートルの速度で北西進を続け、南大東島の東約70キロメートルに達した。15日15時過ぎから進路を北よりに変え、16日早朝には、沖縄の東の海上を北上した。

16日9時、台風は種子島の南東約210キロメートルの海上（北緯29度10分、東経132度20分）に達し、中心気圧が960ミリバールとやや弱まったが中心付近の最大風速は40メートル毎秒、中心から半径200キロメートル以内には25メートル毎秒以上の暴風域、また東側700キロメートルと西側400キロメートル以内には15メートル毎秒以上の強風域をもち、依然として大型で強い勢力を維持した。

16日15時には種子島の東約170キロメートルの海上（北緯30度50分、東経132度50分）に達した時、勢力はやや衰えて大型で並の強さとなった。

その後やや東よりに向きを変えて、毎時25～30キロメートルと次第に速度を増しながら北北東へ進み、16日夜に入って四国の太平洋沿岸に接近し、17日0時ごろ高知県室戸市付近に上陸した。

上陸時の台風は中心気圧970ミリバール、中心付近の最大風速35メートル毎秒となったが、暴風域は東側160キロメートルと西側120キロメートル以内、強風域は東側700キロメートルと西側500キロメートル以内で勢力は依然として大型で並の強さを保っていた。台風は四国に上陸した後、速度を毎時35キロメートルと速め、四国の南東部を北東進し、17日4時過ぎ、兵庫県明石市付近に再上陸した台風はその後さらに速度を増しながら北北東に進み、17日9時過ぎ能登半島を通過して日本海に入り、17日21時には青森県むつ市付近で温帯低気圧に変わった。

(イ) 風雨の状況

台風が沖縄の東海上を北上していた15日、西日本は日本海に中心を持つ高気圧の圏内にあったが、四国の南岸で前線が形成され、太平洋側では明け方から弱い雨が降り始めた。香川県の雨は21時ごろから降りだしたが、初めは弱く16日正午までの最多雨量は引田の20ミリメートルであった。

しかし、台風が接近した18時ごろから急激に風雨ともに強まり、県下全域で暴風雨になった。

特に台風が高知県東部に近づいた22時ごろから、室戸市付近に上陸した夜半にかけては、雨と風が最も強く、1時間に30～40ミリメートルの雨が県内各地で降り続き、高松市では最大瞬間風速35.3メートル毎秒を記録した。

雨は台風が徳島市付近を通過した17日2時過ぎから次第に弱まり、明け方にはほとんどやんだが、風は夜半過ぎには北に変わり、その後北西に向きを変え正午ごろまで10メートル毎秒を超える強風が吹き続いた。

(ロ) 今回の台風の特徴

ア 10月としては太平洋高気圧の勢力が例年より強く、通常この季節には日本の南海上に下がっている偏西風帯が日本海まで北上していたため、台風は南海上を北上して日本付近に接近し、四国地方に上陸した。

10月に四国地方に上陸した台風は過去にあまり例がなく、1940年以降の記録でも1959年（昭和34年）10月7日の台風16号（伊勢湾台風）以来28年振りであった。

イ 香川県では風雨ともに強く、10月としては記録的な強風や大雨となったが、その原因については次のことが考えられる。

(A) 台風が四国東部を北上し、香川県東部に接近して通過したため北から北東の強風が吹きやすい気圧配置になったこと。

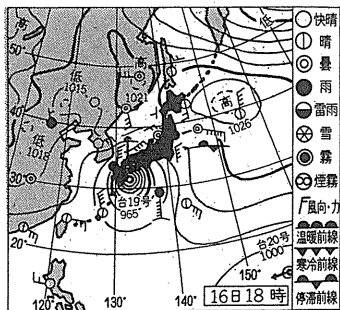
(B) 台風が吹き込む南からの暖湿気流が紀伊水道を通過して香川県は東風となり、日本海からの冷たい北東風とによって発達した雨雲が瀬戸内東部に停滞した。

ウ 短い時間に強い雨が降ったため中小河川の氾濫、堤防の決壊による洪水・浸水被害が多発したほか、土砂災害が発生した。

(4) 風向、風速観測記録

讃岐地区広域消防本部観測値

月 日	時 間	風 向	平均風速	瞬間最大風速
10月16日	17~18	北東	8.8 m/s	19.5 m/s
	18~19	北東	10.5	22.8
	19~20	東北東	9.9	22.7
	20~21	北東	10.9	26.2
	21~22	東	8.2	22.3
	22~23	北東	10.1	26.2
	23~24	北東	12.3	24.0
10月17日	0~1	北東	12.0	26.1
	1~2	北	11.5	21.5
	2~3	北西	11.9	26.4
	3~4	西北西	8.9	18.3
	4~5	南西	8.3	16.9
	5~6	南西	8.7	16.8



第3節 災害の発生

(1) 発生の概況

三木町で10月16日から降り始めた雨は16日19時20分暴風雨波浪洪水警報が発表された後、田中地区では時間雨量50ミリメートルを超える降雨が断続的に降り、各地で山崩れ、河川の氾濫により被害が発生、21時から22時にかけては時間雨量84ミリメートルという驚くべき降雨を記録した。すなわち10月16日から17日にかけて471ミリメートルという、年間雨量の半分近くの降雨をもたらし、三木町全域にわたり、かつてない大きな被害を与えたのである。

(2) 町水防本部・災害対策本部の記録

月 日	時 間	内 容
10月16日	11:30	(風雨波浪注意報発表)
	17:00	(強風波浪大雨洪水注意報発表)
		総務、建設、土地改良課の男子職員は災害対策勤務(交代)
		その他の各課は担当施設の警備見廻り
	19:20	(暴風雨波浪洪水警報発表)
		町長等に電話連絡
		職員の登庁始まる
	19:45	総務、建設、土地改良課の職員を全員召集
	20:00	水防本部設置
		水防本部を設置したことに関係機関に電話連絡及び住民に有線放送にて周知
		団長到着、副団長に召集連絡
		消防団員屯所集合命令
		被害等の連絡が入り始める
	20:15	前山ダム管理事務所より前山ダム放流の通知
		有線放送にて地域住民に周知をする

昭和62年10月台風19号災害と復旧の記録 まさか三木町に

月 日	時 間	内 容
		町内各小・中学校職員宿直警備配置(管理職を含む男子職員2~3人)
	20:20	消防団員屯所待機完了 男子職員召集完了
	21:55	避難命令 平木下所、荒木地区
	22:00	避難命令 池戸下所地区
10月17日	0:30	避難命令 西地、砂古、北天枝、南天枝地区
	1:00	避難準備命令 池戸地区
	1:30	日赤救護班到着(9名)ただちに避難所巡回毛布配布(200枚)
	1:40	避難命令 山田下池・上池下流一帯、高野地区
	3:30	日赤毛布追加分到着(200枚)
	4:30	水防本部会議開催
	5:30	(暴風雨波浪洪水警報解除) (強風波浪洪水注意報発表)
	6:05	保、幼、小、中学校の臨時休校を有線放送で周知
	6:30	避難命令解除(有線放送で周知) 災害対策本部設置

月 日	時 間	内 容
	8:30	災害対策本部会議開催(第1回) 被災箇所の仮復旧に着手
	9:00	床上浸水確認調査開始
	14:00	町議会全員協議会開催 災害対策本部会議開催(第2回) 床上・床下浸水家屋消毒作業開始(10月17日~11月10日)
	20:30	災害救助法適用(県より電話連絡にて)
10月18日	8:30	被災箇所の確認調査(関係各課)
	11:00	床上浸水確認調査(全課男子職員及び住民課女子職員)
	16:00	災害対策本部会議開催(第3回)
10月19日	8:35	災害対策本部会議開催(第4回)
	10:00	NHK電気機器無料相談所開設(役場)
10月20日	12:00	災害周知広報全戸配布
	16:30	災害対策本部会議開催(第5回)
10月22日	16:00	災害対策本部会議開催(第6回)
10月23日	16:00	災害復旧対策協議(関係各課)
10月24日	9:00	災害復旧対策協議(関係各課)
	10:00	生活必需品を被災家庭へ配布開始(24日~25日)

月 日	時 間	内 容
10月26日	9:30	災害対策本部会議開催（第7回）
	13:00	町議会全員協議会開催
	16:45	災害対策本部会議開催（第8回）
	17:00	災害対策本部解散
10月29日	9:00	町議会全員協議会開催
10月30日		町長、議長等中央省庁へ陳情
11月2日	13:00	災害対策会議開催
11月9日	15:00	災害対策会議開催



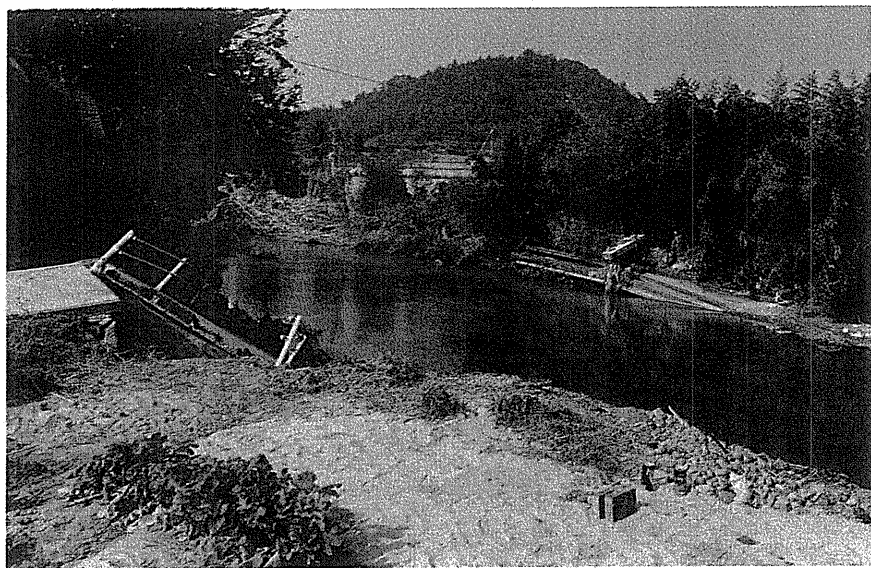
役場南玄関にて

(3) 避難命令及び避難状況

地区名	命令・勧告 自主 避難の別	命令・勧告 日時(自主 避難日時)	避 難		避 難 先	避 難 理 由	解除日時 (又は 帰宅日時)
			世帯数	人数			
平木下所 荒木地区	命 令	16日 21時55分	22	68	高野八幡社務所 平井小学校	新川の越流及び 決壊のおそれ	17日 6時30分
池戸下所地区	〃	16日 22時00分	35	77	平井小学校 池戸公民館 平井幼池戸分園	〃	〃
西地、砂古 天枝地区	〃	17日 0時30分	46	150	三木中学校 農協天枝出張所	蓮池の決壊の おそれ	〃
山田下池 下流地区	〃	17日 1時40分	9	30	高野八幡社務所 平井小学校	山田下池上池の 決壊のおそれ	〃
高野地区	〃	17日 1時40分	5	12	〃	新川の決壊の おそれ	〃
福万地区	勧 告	16日 21時00分	17	56	福万憩の家 福祉センター	床 上 浸 水	〃
長生地区	〃	16日 23時00分	2	6	福祉センター	家 屋 流 失	〃
下氷上地区	自 主	〃	4	11	改善センター 福祉センター	〃	〃
公文明地区	〃	16日 22時00分	6	20	井戸教育集会所	床 上 浸 水	17日 6時30分
鹿庭地区	〃	〃	1	3	勤労者体育 センター	〃	〃

第4節 被害の状況

(1) 写真で見る各地の被害状況



農道橋流失 (新川 桃の木橋)



頭首工流失 (新川 上新川堰)



平田川 (田中砂古)



ため池決壊 (井上小原)



水路崩壊 (井上小谷)



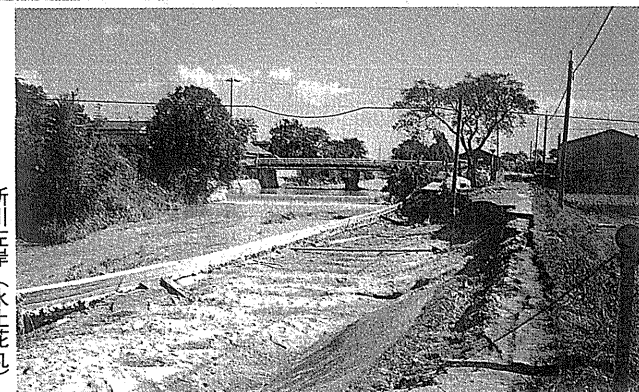
農地流失 (井上小谷)



新川右岸 (氷上長生)

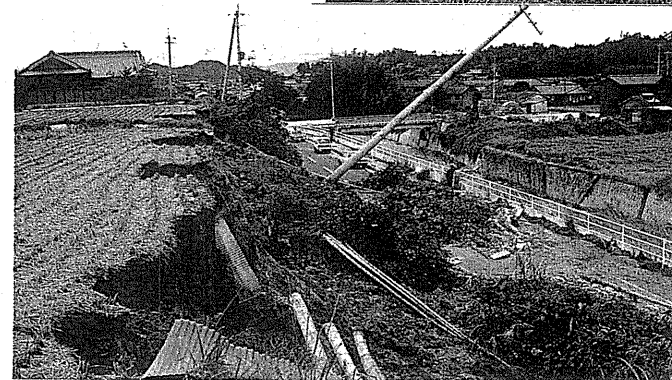
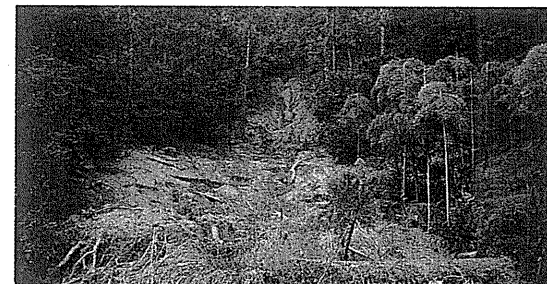
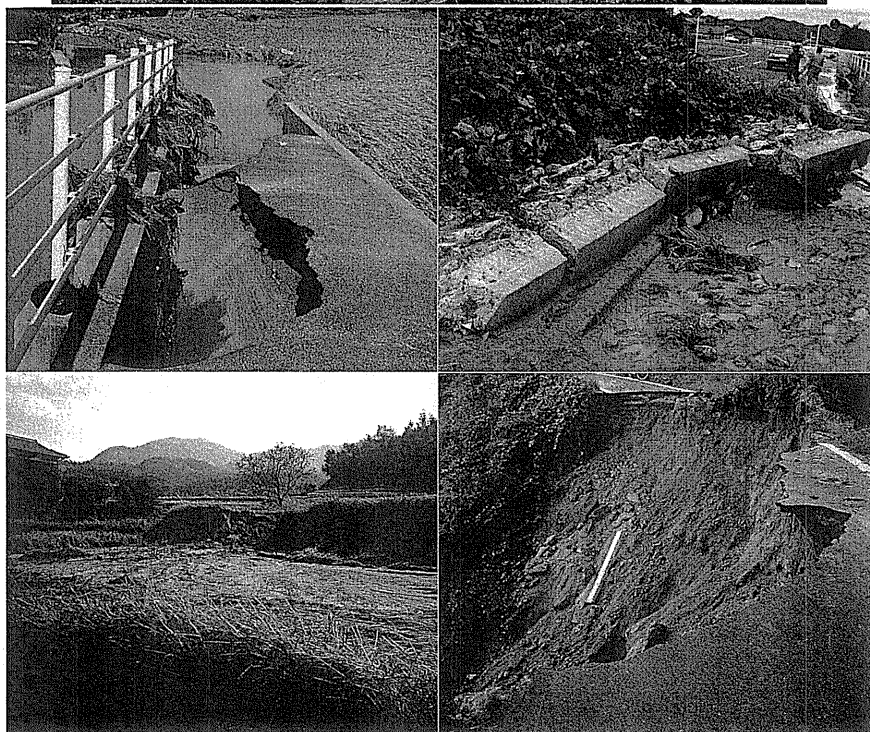


熊川 (氷上水谷原)



新川左岸 (氷上花丸)

「町内いたるところで被害が…」



「水田が…」(井上小谷)

県道多和三木線 (鹿庭二区)



町道三条鹿庭線 (鹿庭三区)



新川 (高野橋付近)



「収穫目前の水稲が…」



「水田の畦畔が…」

風速、高松で
35.3
トレイ

雨量も記録的150ミリ超す

5年ぶりの
最悪コース

台風19号の被害は、高松市で最大。高松市では、10月19日午後1時30分頃、高松市で最大風速35.3メートル、雨量150ミリを超す大雨が降った。高松市では、10月19日午後1時30分頃、高松市で最大風速35.3メートル、雨量150ミリを超す大雨が降った。

(2) 人的被害

被害なし

(3) 建物被害

全壊 6戸

半壊 6戸

一部破壊 159戸

床上浸水 171戸

床下浸水 602戸

(4) 農林被害

(単位 千円)

種別	箇所数等	被害金額
ため池	149カ所	636,873
水路	344	608,601
農道	129	183,207
農道橋	17	29,367
農地	田 955	1,193,585
	畑 38	42,408
頭首工	18	25,366
計	1,650	2,719,407
農作物	1,023 ha	527,099
合計	—	3,246,506

(5) 土木被害

(単位 千円)

種別	件数	被害金額
町道	126件	200,000
町道橋	2	26,000
町河川	67	170,980
合計	195	396,980

(6) その他の被害

種別	箇所数等
文教施設	21箇所
崖崩れ	8箇所
上水道(断水)	54戸
電話(不通)	NTT……35回線 有線放送…80回線
電気(停電)	256戸

